

イキトモ

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「イキトモ」

IYOR 2018
INTERNATIONAL YEAR OF THE REEF

2018年は
国際サンゴ礁年



国際サンゴ礁年2018

VOL.

14

特別号

海とサンゴと生物多様性

海の中の世界を 考えてみよう。

私たちの住む日本周辺の海には、たくさんの生きものが暮らしています。特に、熱帯、亜熱帯の海に広がるサンゴ礁には、非常に多くの生きものが暮らしています。サンゴ礁は生きものが生きるために必要な食べ物やすみかを提供して、生命を育む大切な存在です。このようなサンゴ礁が今、危機的な状況に瀕しています。2018年は国際サンゴ礁年です。サンゴのことを知り、サンゴのためにできることを考えてみましょう。

※国際サンゴ礁年
サンゴ礁生態系保全のための国際的枠組みである国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）が、2018年を「国際サンゴ礁年」に指定することを宣言。
サンゴ礁生態系について普及啓発し、行動を促すための世界規模のキャンペーンです。

サンゴって何？

実はサンゴは動物です。イソギンチャクやクラゲの仲間です。石灰化するサンゴの骨格などが長い年月をかけて積み重なり、地形となったものがサンゴ礁です。



ツノダシ

長く伸びた背びれが特徴。太平洋からインド洋にかけての熱帯のサンゴ礁や岩礁に生息する。

サンゴ礁の海は、 生物多様性の宝庫です。

海の中には、地上とは異なる多種多様な生きものの世界が広がっています。サンゴ礁と密接な関係をもつ生きものたちを紹介します。



カクレクマノミ

サンゴ礁でハタゴイソギンチャクと共生する小型の魚。黒く縁取られた3本の横帯が特徴。

オトヒメエビ

サンゴ礁や岩礁に生息し、雌雄のつがいで同居する。大型魚と共生し、クリーニング行動でも知られる。

知っておきたいサンゴのこと



サンゴの恵み

サンゴ礁には、さまざまな種類のサンゴや魚類をはじめ、ナマコや貝類などの底生生物など、多様な生きものが集まり、その営みが、「海の熱帯林」と呼ばれるほど複雑で豊かな生態系を織りなしています。私たちにとっても、豊かな漁場、津波・高潮等の被害を軽減する天然の防波堤、癒やしや観光資源などの恵みを与えてくれます。



サンゴが危ない！

サンゴ礁は気候変動、陸域からの土砂や排水による劣化、オニヒトデによる食害などの影響を受けやすい、もろくて弱い生態系です。近年、世界中でサンゴの大規模な白化現象が起きています。白化は主に海水温の上昇等により、サンゴの体内に共生している褐虫藻というプランクトンが失われ、サンゴの白い骨格が透けて見える現象です。環境がすぐに戻れば回復することもあります。長く白化が続くと死んでしまいます。



サンゴ礁を守るために！

サンゴのことを知り、サンゴ礁の生きものを守るために行動することが大切です。地球温暖化を防止するためにCO₂を減らすこと、海を汚さないこと、サンゴ礁を守る活動に参加することなどでサンゴ礁の保全に貢献することができます。まずはサンゴ礁のことを知ることから始めてみましょう。

INTERVIEW

チーム美らサンゴ

事務局 ANAホールディングス株式会社

2004年にスタートしたサンゴ再生プロジェクト。沖縄県内外の企業19社が協働し、沖縄のサンゴ礁生態系の再生を支援。



沖縄の海とサンゴをチームで保護します。

Q 「チーム美らサンゴ」の活動内容について教えてください。

A 沖縄県の恩納村で年4回程度、サンゴ苗を植え付けたり、陸上施設で苗作りを行っていき、活動開始から2016年までに2946名が参加し、6876本のサンゴ苗を植え付けました。植え付け場所となっている恩納村の万座湾内は再生が進んでいます。

Q 活動開始のきっかけは？

A 発起人であるANAの所有ホテルがある恩納村との関係から環境保全ツアーを企画しました。その際、一般旅行者でも体験できるプログラムとして地元関係者からサンゴ植え付けを提案されたことがきっかけとなり、翌年、沖縄県内外企業と「チーム美らサンゴ」が結成されることになりました。

Q になりました。

Q チームで活動することの利点はどこですか？

A 異なる得意分野を有する企業が、アイデアを出しながら連携することで、より影響力を持つ活動ができることです。

Q プログラムに参加される方に、変化はありますか？

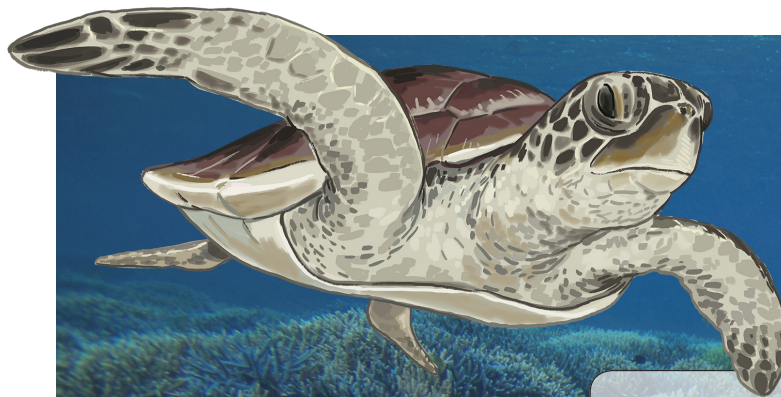
A 参加者は年々増え、リピーターも多いです。ダイビングの資格が必要ないノンダイバープログラムも設定しています。単なる観光ではない、環境に配慮した活動や社会的意義のあることに、お客様も興味があるのだと感じます。最近では、高校生や大学生のお問い合わせも多いです。企業の社会貢献が一般的になってきて企業から問合せも増えました。

Q 植え付けに参加しなくても、できることはありますか？

A 寄付があります。2016年に集まった寄付で、翌春に400本を植えました。また各地で開催されるイベントに参加し、サンゴについてはまずは興味をもっていたいただきたいです。

Q 活動開始から14年目になりましたが、今後の目標はありますか？

A 現在は沖縄県内、国内だけの活動ですが、海外の団体とも意見交換ができればと考えています。恩納村では植え付けの技術がほぼ確立し、成果が出てきていますが、私たちの知らない手法や考え方があってもいいかもしれません。また次世代を担う子どもたちにもっとサンゴについて知っていただくための普及活動を行ってまいります。



アオウミガメ
熱帯から温帯の海に幅広く生息。海藻などを食べ、大きいものは体長1mを超える。絶滅危惧種。

ハナヒゲウツボ
水深50mほどまでのサンゴ礁の岩の隙間や砂底に掘った穴を巣にする。鮮やかな体色が特徴。



生物多様性のことを多くの人に
知ってもらうために、2012年9
月に旗揚げした様々な団体のキ
ャラクターによる広報組織です。



生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

国際サンゴ礁年
イメージキャラクター **礁太**

(環境省 自然環境局自然環境計画課)

サンゴ礁の海に暮らす礁太は
海が変化し、サンゴや魚、生
きものの住処がなくなってい
ることに気付き、豊かな海を
守ることを人々に伝えます。



千年さんごちゃん

(徳島県牟岐町)

徳島県牟岐大島沖に1000年
以上生き続けて、奇跡の千年
サンゴと呼ばれるコブハマサ
ンゴを守る活動を応援するサ
ンゴの妖精です。



認定連携事業

生物多様性を守るために連携して取り組んでいる
事業を認定し、広報活動を行っています。

『Blue Earth Project』

「女子高生が社会を変える」をキャッチフレー
ズに、全国約200名の高校生が環境問題
に対する女子高生ならではの身近なアクションを考
えて、街中で賛同を募る活動です。2016年度はサ
ンゴの保全を訴えて、全国で1万枚を超えるサンゴ
へのメッセージを集め、
270株ものサンゴ苗の
植えつけにつながりま
した。今後も、海の生
きものを次世代へ残す
活動を続けていきます。



100

『生物多様性の本箱』から ～みんなが生きものつながる100冊～

生物多様性の理解や
普及啓発のために
UNDB-J 推薦
「子供向け図書」
を選定しています。

『海中記』

写真・文＝小林安雅
出版＝福音館書店



海の生きものはどんな暮らしをし
ているのでしょうか。サンゴの
産卵や魚の寝相など、図鑑と少し違っ
た視点で海の生きものをたくさんの写
真で知ることができ一冊です。生き
ものの半数以上は伊豆半島で撮影され、
実際に見ることができます。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)
※ UNDB = United Nation on Biodiversity

「国連生物多様性の10年」の決定を受けて、2011年9月に設立。生物多様性の
主流化を目指して国内外のあらゆる主体が連携し様々な取組を進めています。

編集・発行

国連生物多様性の10年日本委員会事務局(環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室)

ホームページ URL : <http://undb.jp/> メールアドレス : shizen-suishin@env.go.jp

